

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	浅間高原文化・芸術発信事業
事業主体 (連絡先)	御代田町 (浅間縄文ミュージアム 0267-32-8922)
事業区分	(3)教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,321,694 円 (うち支援金: 881,000 円)

事業内容

浅間縄文ミュージアムを主体にした浅間山麓の文化・芸術の発信事業。

美の考古学の講演会や粘土利用の焼き物ワークショップを実施した。あわせて町の鑄師屋遺跡群に説明版を設置し、浅間縄文ミュージアムと古代遺跡のフィールドをつないだ。また、日本語版・英語版の詳細な博物館パンフレットを作成し、浅間山麓の縄文文化の情報発信に努めた。

企画展では、色絵陶磁展、現代彫刻展、エイブルアート展を実施して、多くの来館者に作品を鑑賞いただいた。「障がい者芸術」というような垣根が次第に取りはずされ、広く芸術を楽しむ状況が生まれつつある。



【「美の考古学」講演会】

【目標・ねらい】

- ①多様な文化・芸術の発信
- ②浅間山麓の縄文文化の紹介
- ③地域アーティストの活動展開
- ④冬季の観光人口の創出

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

博物館での従来の歴史系展示にとらわれず、色絵陶磁展、現代彫刻展、エイブルアート（障がい者芸術）など多様な芸術の展示を行い、それぞれ 1112 人、807 人、738 人の見学があった。

また、古代遺跡の説明版を設置してフィールドでの歴史遺産の紹介をおこなった。

地域のアーティストや歴史研究者とのコラボレーションを生み出して、それぞれの育成・活躍の場と、地域への人の流れを創出しつつある。また、エイブル（障害者）アートの展開により、バリアレスな地域文化の形成の足がかりとなった。

※自己評価 【B】

【理由】

各種事業については、展示の多様性を生み出し、一定の観覧者増が得られた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

平成30年度は、ミュージアムにおいて多様な展示を展開し、話題作りを行うとともに、人の流れが少ない冬季なども含め多くの観覧者に訪れていただけるよう「浅間高原文化・芸術発信事業」を継続して実施する。さきにも述べたが「障がい者芸術」というような特別な垣根が次第に取りはずされることが肝要である。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある